



佐賀大学
有明海
総合研究
プロジェクト

NEWS LETTER

No.4

Ariake Sea Research
Project
PHONE/FAX: 0952-28-8846
http://www.ariake.civil.saga-u.ac.jp/
ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp



トピックス:

- 平成 18 年度 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト成果公開シンポジウムを開催します …1
- 平成 19 年度 ゆっつら〜と街角大学 - 有明海特集 - …2
- 加藤治先生、友国先生、お世話になりました …4
- 有明海総合研究プロジェクト事務局 移転のお知らせ …4
- 新メンバー紹介 …4

平成 18 年度 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト成果公開シンポジウム

主催
佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト

会場
理工学部 6 号館

お問い合わせ
佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト
事務局

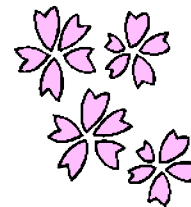
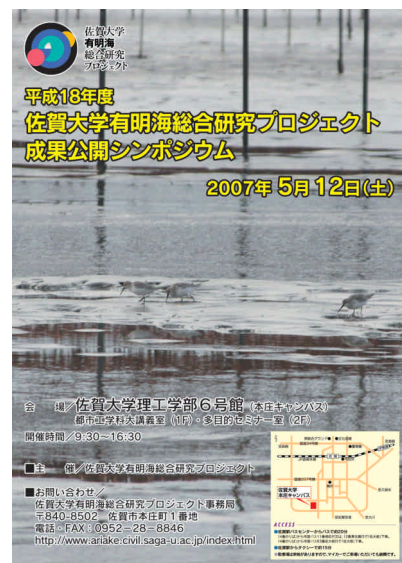
〒840-8502
佐賀市本庄町 1 番地

電話 FAX :0952-28-8846

www.ariake.civil.saga-u.ac.jp
ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp

平成 18 年度 佐賀大学 有明海総合研究プロジェクト 成果公開シンポジウムを開催します

荒牧軍治 有明海総合研究プロジェクトプロジェクト長



平成 18 年度佐賀大学有明海総合研究プロジェクトの成果公開シンポジウムを、平成 19 年 5 月 12 日(土)に佐賀大学理工学部 6号館で開催いたします。環境省が所掌する有明海・八代海総合調査評価委員会が昨年 12 月に 4 年間の調査評価結果をまとめた最終報告書を発表し、現時点における調査結果の到達点を示しました。佐賀大学の有明海総合研究プロジェクトが環境省の到達点に加えてどのような新たな知見を示しうるのか、プロジェクト研究の真価が問われる成果発表会だと認識しています。

また、環境科学分野に加え、微生物学、医学、地域文化・経済の分野をも含む「有明海学」の創設に向けた取り組みの成果も是非お聞き願えればと思います。

研究発表

コア研究 1

環境物質動態研究部門

- ・有明海奥部における底泥の再懸濁・沈降に関する研究 山本浩一
- ・有明海底質細胞外ポリマーの分析とその評価に関する研究 原田浩幸

干潟底質環境研究部門

- ・有明海奥部西岸域における貧酸素水塊の発生機構について 瀬口昌洋
- ・2006 年夏季における有明海湾奥部の鉄濃度の変化と溶存酸素 田端正明
- ・底質改良技術の検証 加藤治

環境モデル研究部門

- ・有明海奥部における物質輸送と低次生態系の動態について ~2 年目の成果~ 速水祐一
- ・有明海奥部における流れと懸濁物輸送 -現地観測と数値モデルによる考察- 濱田孝治
- ・有明海奥部の残差流観測と土地利用 GIS に基づく筑後川流域の流出解析 大串浩一郎

コア研究 2

微生物相研究部門

- ・有明海に生息する細菌の生産する 型制限酵素 加藤富民雄
- ・有明海由来の微生物に関する研究 小林元太

食水系統感染症研究部門

- ・ピリオ・バルニフィカス感染症対策 ;今年度の成果 中島幹夫・大石浩隆

コア研究 3

地域文化・経済研究部門

- ・川養殖漁家の生業構造の変遷と複合的生業 -有明海北西部地域を事例に- 五十嵐勉

ゆっつら~と街角大学

ゆっつら~と街角大学

日時 金曜日、

10:30 ~ 12:00

場所 :ゆっつら~と館

前期講義表や受講を希望される方は事務局までお問合せ下さい。

お問合せ先

事務局

ゆっつら~と街角大学委員会

担当 :平古場保子

〒840-0824

佐賀市呉服元町 7-3

ゆっつら~と館内

Phone :

0952-40-8570

Fax :0952-40-8571



平成 19 年度 ゆっつら~と街角大学 - 有明海特集 -

池田智子 (経済学部助手, 平成 18 年度有明海総合研究プロジェクト学内研究協力者)

ゆっつら~と街角大学は、市民を対象に年 30 回 (金曜日、10:30~12:00) 佐賀大学地域貢献室分室 ゆっつら~と館で講義をしています。講師は佐大教員や専門的に地域で活躍されている方々で内容はさまざまです。

今年度は6月の環境月間に合わせて佐賀人にとって身近な『有明海』を取り上げることにしました。有明海総合研究プロジェクトからは快くご協力をいただき、下記のような内容のプログラムにはみな大満足です。6回の連続講義であること、各専門分野からの話が聞けること、この特集で多様な視点から社会問題になっている『宝の海有明海の再生』について考えるヒントになればと思います。

ゆっつら~と街角大学はゆっつら~と館のオープンをきっかけに平成 15 年 2 月からスタートしました。当時は『佐大教官と語ろう!』といって17時から開催していましたが、平成 17 年 4 月に『ゆっつら~と街角大学』と変え午前に実施するようになりました。定員は 60 名ですが、今年度は 100 名以上の応募があり、市民の学習意欲の高さが伺われました。

ゆっつら~と街角大学では、今後とも各教員のご協力や有明海総合研究プロジェクトのような組織単位のご支援が不可欠です。

今回、このような特集を組むことができ、スタッフ一同大変喜んでます。

有明海総合研究プロジェクトの皆様、ありがとうございます(感謝)。



ゆっつら~と街角大学の受講風景



以前実施した『有明海』の市民講座の様子

ゆっつら~と街角大学 - 有明海特集 -

佐賀大学の 6 人の教員から各研究成果を市民の皆様へ公開し、『宝の海 有明海の再生』について一緒に考え、意見交換しましょう。

- 第 1 回 『有明海の干潟とニゴリの役割』
- 第 2 回 『有明海とピリオ感染症』
- 第 3 回 『有明海由来の微生物について』
- 第 4 回 『有明海とリャ殖漁家』
- 第 5 回 『新聞記事に見る有明海 諫早湾』
- 第 6 回 『江戸時代の『有明海』漁業について』

~ 講義終了後、ビデオをみます。 ~
奇数回 『今、有明海は、消え行く魚撈習俗の記録』
偶数回 『里海と生きる~有明海・鹿島~』

佐賀大学まちづくりサテライト ゆっつら~と館

佐賀大学地域貢献推進室分室として、平成 14 年 11 月に佐賀市呉服町名店街の一角に開館しました。

ゆっつら~と館は教職員や学生の研究・教育の場、市民との接点の場です。

どうぞ、皆様お気軽にお越し下さい。

開館時間 : 平日の 10 時 ~ 17 時

休館日 : 土・日、年末年始



学生が子供達の勉強をみる『ばるん塾』の様子

第 1回 2007年6月1日**演題： 有明海の干潟とニゴリの役割****講師： 田端 正明 (理工学部 教授、有明海総合研究プロジェクトコア研究者)**

有明海は濁っており 広大な干潟が干潮時には現れる。一見すれば、青い海に比べて“汚い”ように見える。しかし、この*ニゴリと干潟*が他の海に見られない有明海の特徴を生み出している。ムツゴロウやワラスボはじめ有明海特有の生物、日本の総生産高の40%以上を占めるノリ生産などである。本講義では、有明海のニゴリと干潟の役割を化学の目から見た研究データに基づいて講演する。

第 2回 2007年6月8日**演題： 有明海とピリオ感染症****講師： 大石 浩隆 (有明海総合研究プロジェクト准教授)**

コレラや腸炎ピリオの仲間である、「ピリオ・バルニフィカス」による感染症は、1970年代に報告されはじめた。本症は、急激な経過を取る予後不良の疾患であるが、我が国においては有明海沿岸地域に多く発生している。今回は、この病気の特徴や予防法等について述べてみたい。

第 3回 2007年6月15日**演題： 有明海由来の微生物について****講師： 小林 元太 (有明海総合研究プロジェクト准教授)**

有明海はこれまでに「豊穡の海」と呼ばれ、種々の特異な生物が生息しているが、それらの食物連鎖の出発点は微生物である。今回は、有明海由来の微生物の分類や分布、さらに有明海沿岸地域に多く発生している「ピリオ・バルニフィカス」感染症に対する微生物学的なアプローチについて紹介する。

第 4回 2007年6月22日**演題： 有明海とノリ養殖漁家****講師： 山下 宗利 (文化教育学部 教授、有明海総合研究プロジェクトコア研究者)**

有明海沿岸のノリ養殖生産漁家に焦点をあて、有明海におけるノリ養殖について説明します。とくに現在、主流となりつつあるノリ養殖の協業化の進展状況を述べます。さらに協業化に移行した生産漁家と従来の個人経営の生産漁家との対比をおこない、ノリ養殖協業化の今後の展開を考えます。

第 5回 2007年6月29日**演題： 新聞記事に見る有明海 諫早湾****講師： 榎澤 秀木 (経済学部 教授、有明海総合研究プロジェクト学内研究協力者)**

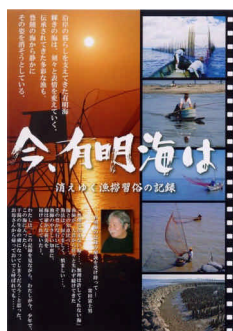
有明海 諫早湾は、これまで新聞記事でどのように扱われてきたのでしょうか。どんどん埋め立てて国土開発をする対象？ 漁業資源として保護すべき対象？ 貴重な自然環境として保護すべき対象？ 今回の授業では、1952年から2005年までの朝日新聞と佐賀新聞の関連記事をもとに、有明海 諫早湾について新聞記事の論調が大きく変わってきたことを検証します。

第 6回 2007年7月6日**演題： 江戸時代の「有明海」漁業について****講師： 伊藤 彰子 (地域学歴史文化研究センター教務補佐員)**

有明海 諫早湾は、これまで新聞記事でどのように扱われてきたのでしょうか。どんどん埋め立てて国土開発をする対象？ 漁業資源として保護すべき対象？ 貴重な自然環境として保護すべき対象？ 今回の授業では、1952年から2005年までの朝日新聞と佐賀新聞の関連記事をもとに、有明海 諫早湾について新聞記事の論調が大きく変わってきたことを検証します。

**有明海の
伝統 漁船漁法**

ムツカケ漁
スボカキ漁
ウナギカキ漁
メカジャ漁
タカッポ漁
ニシ貝採り
ワケ漁
ウナギ塚漁
手ジヨレン漁
カキ床
ヨツデ網
甲手待ち漁
スクイ漁
カタゲジユブ
ネライ漁
待ち網
手押し網
アミ押し網
サデ網
アミモジ網
ウケハゼ網
タケハゼ網
竹カシ網漁
コウモリ漁
アンコウ漁
投網漁
エツ漁
イカカゴ漁
タコツボ漁
タコ縄漁
クラゲ漁
カニ網漁
スズキ流し網漁
ゲンシキ網漁
定置網
コノシロ漁
エビ流し網漁
ノベ縄漁
アゲマキ採り
タイラギ漁
海苔漁
ワカメ漁



文化記録映画大賞
受賞作品
『今、有明海は
～消えゆく漁撈習俗
の記録～』
2006年制作、90分
(株)イワロ
Phone :0957-24-8105
芸術文化振興基金助成事業



『里海と生きる
～有明海・鹿島～』
2005年制作、30分
WWF ジャパン
WWF (世界自然保護基金)
DVD 『海と生きるシリーズ』
(財)日本宝くし協会助成事業

DVD 『今、有明海は
～消えゆく漁撈習俗
の記録～』より

この春退職された先生へ
感謝をこめて



加藤治先生、友国先生、お世話になりました

荒牧軍治 有明海総合研究プロジェクト長

農学部に加藤治先生、医学部の友国先生が定年で退職されました。これまでプロジェクトのメンバーとして、またアドバイザーとして参加いただいていた両先生に感謝の意を表します

加藤先生は、専門が私の専門に近い農業土木の分野でしたので昔からその活躍は存じ上げておりました。2003年から連載された佐賀新聞の「佐賀大学探訪」の研究室紹介で有明海の干潟排水の研究が紹介されていたのを覚えています。有明海のこ

となどあまり関心が持たれなかった頃から有明海に興味を持ち研究を継続し、成果をあげてこられた先達に敬意を表したいと思います。

環境医学がご専門の友国先生とは環境分野の委員会でご一緒したのがきっかけで、有明海総合研究プロジェクトを立ち上げる際、医学分野のまとめ役、ご意見番をお願いしました。穏和な先生の風貌と正確なご意見に何度か助けられました。有り難うございました。

We've Moved

有明海総合研究プロジェクト事務室 移転のお知らせ

理工学部 3号館にお世話になっていましたが、
産学官連携推進機構 2階 実験室 1へ移転いたしました。

購入依頼等

外線電話 → 0952-28-8846

運営 出張

内線電話 → 2966

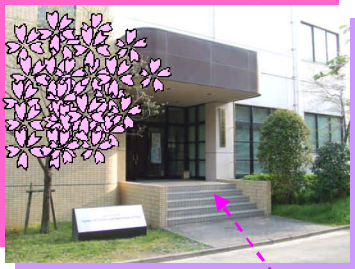
Fax 全て

外線 Fax → 0952-28-8846

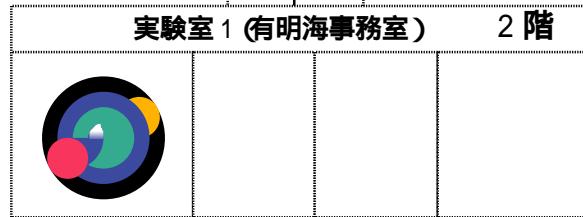


e-mail → ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp

事務系受付アドレス
開設しました。
電子メールは
こちらへ



産学官連携推進機構
2階 実験室 1



佐賀大学
有明海
総合研究
プロジェクト

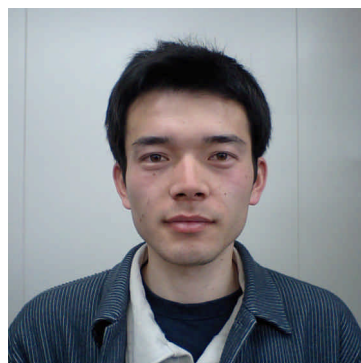
〒840-8502
佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL FAX 0952 - 28 - 8846

www.ariake.civil.saga-u.ac.jp
ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp

プロジェクトメンバー紹介

非常勤研究員 山口 創一 (コア研究1 環境モデル研究部門)



平成19年4月1日付けで九州大学大学院総合理工学府より環境モデル研究部門・研究機関研究員として着任しました。

観測と数値モデリング等の手法を用いて有明海における貧酸素水塊の形成機構の解明とその防除手法を確立し、有明海の環境改善へ貢献していきたいと考えています。

また、長期にわたるデータの解析を通して有明海の環境がどう変化していったのかを評価していきたいと考えています。

どうぞよろしくお願ひいたします。